



ひなんじょせいかつたいけん 避難所生活体験 レポート

★10月3日(土)午後1時半より 4日(日)午前11時半まで一泊二日の日程で、主催事業『避難所生活体験』が開催されました。小学校3年生から中学生1年生まで30名が参加しました。しばらく雨続きでしたが、当日はおだやかな曇り空のもとでの開催となりました。

●1日目、最初の体験プログラムは函館市北消防署末広出張所の所長をはじめ消防士のみなさんから『緊急時に身近なものを使った応急処置』を教えてくださいました。



①三角巾を使った応急処置のしかた・・・二人一組になって「頭から血が出た時の包帯として」「腕をケガした時のつり方」をやってみました。消防士さんが各ペアのようすを確認しながら丁寧に教えてくれました。

②「毛布を使った担架の作り方」・・・竹馬を心棒にして毛布をたたんで作る担架です。棒が無くても、両端を丸めるだけで持ち上げることができました。



●大研修室へ移動して次のプログラムは、東日本大震災ほか多くの被災地で救難活動をされた経験のある(ピリカ自然塾塾長)石川佳洋先生の災害現場での活動をとおしたお話をしていただきました。



「自助・共助・公助」という言葉がありますが、何よりもまず自分の身を守ることが大事。それが出来て初めて(共助)目の前の人を助けることができるということを強くお話されました。「海でおぼれている人を見つけたら絶対に自分で泳いで助けにいったはいけない。」先生は救助のロープを投げて助けます。(写真)←先生が右手に持っている筒をほうると一本の長いロープが飛んでいきました。いつも車には救命胴衣になる座席マットを積んでいるそうです。

悲しいことですが天国へ行ってしまった人たちを探して家族のもとへ連れていくのが被災地でのお仕事

でした。そんな被災地の避難所にいる子どもたちの笑顔はとても元気の源になったそうです。→ ○続いて、石川先生から「空き缶で作るランタン」の工作を教わりました。アルミ空き缶にハサミで穴をあけて簡単な手順でできました。中にろうそくを入れて火をつけて使うのですが、火事が一番恐ろしいので、電池が無くなって灯りに困ったときの最後の方法がこのランタンです。工作は缶の切り口で手を切る心配がありました、「気を付けないと大人でもケガをするのに、みんな上手に作ってスゴイ。」と石川先生はほめていました。(帰りにおみやげでろうそくを配りましたが、おうちで試してみる時はおとなの人といっしょにやりましょう。) → 石川先生にはこのあとの体育館での体験でも、ひもの結び方やいろいろなお話をしていただきました。



★暗くなってきたら、いよいよ体育館で避難所生活体験です。

●みんなでブルーシートの上にアルミマットと寝袋で自分の寝床を作りました。いつもは班のグループごとに集まりますがソーシャルディスタンスでひとりひとりマットの間をあけて離れています。

そして晩ごはん・朝ごはんは非常食の体験です。メニューは「アルファ米」・「非常用インスタントスープ」・「さばの缶詰め」・「ミネラルウォーター」です。何年も保存できるアルファ米にお湯を入れてかき混ぜたら15分以上待ちます。数種類の味から好きなものを選んで食べました。アルファ米もメーカーによって

違いがあるようで、去年は和洋と種類は豊富でしたが、おとなにとっては量が少しくなく、味付けもかなり濃いものでした。今年のは種類は和風で少ないのですが、量が十分にあり、薄味でした。さば缶が大人気でした。（アルファ米はひとり3個選んで、残り1個はご家庭へのおみやげです。）

体育館や廊下・トイレの照明を消しながらの避難所生活体験ですが、特別にいつものようにふるるのお風呂を使って入浴しました。午後9時半に完全消灯し、寝袋に入って就寝しました。

★2日目は寝床の片付けのあとアルファ米にお湯を入れて待っている間に体操をしました。いつものラジオ体操ではなく、ボランティアの「ごとけん」さんが前に立って「自衛隊体操」に挑戦してみました。難しいものでしたが、珍しいのでみんな刺激になったようです。朝食～みじたく～会場の片付けと続いて、大研修室に移動し、今回の体験で感じたことをまとめた感想文を書きました。→！！と、ここで予告なしで『地震発生による緊急避難訓練』です！緊急地震速報「エリアメール」を鳴らして、全員が机の下へ（大人は窓ガラス飛散防止でカーテン閉め・出入口を開放）。急な訓練でもみなさん慌てず真剣に行動しました。出入口に近い班から順に1列になって体育館へ移動です。⇒その体育館では……

●谷地頭町会・ふるる函館合同『ファミリー防災訓練』が催されました。

平澤センター長の挨拶につづいて、『避難所生活体験』の5つの班からそれぞれ代表者2名が今回のイベントに参加しての感想を発表しました。皆さんたくさんの感想をしっかりと発表していました。

さいごに谷地頭町会 鈴木副会長から「避難経路・避難所スペース」のお話、「防災用備品」の紹介説明がありました。谷地頭町会さまからはイベント参加のみなさんにアルミシートのプレゼントがありました。（写真のモデルは防寒用装着の例です。↑）



※今回の『避難所生活体験』では講師の方々のほかに子どもたちの手助けをして見守ってくれた、学生や社会人6名のボランティアのみなさんのご協力がありました。「参加した子どもたちはとても熱心にメモをとりながら真剣にお話を聞いていて、とてもすばらしい子たちばかりでした。」とみなさんおっしゃっていました。講師ならびにボランティアとしてご協力をいただきました皆さんのおかげで全員無事にイベントを終えることができ、あらためて感謝いたします。



★これを機会にご家庭でも「家に一番近い避難所と経路の確認」・「もしもの時の連絡や集合場所」・「防災用品の用意」などのお話をしてみてくださいね。